
 学 会 記 事

第 101 回新潟内分泌代謝同好会

日 時 平成 27 年 6 月 13 日 (土)
午後 2 時 30 分～6 時
会 場 万代シルバーホテル 5 階
「万代」

I. 一 般 演 題

1 市販漢方製剤により褐色細胞腫様の症状を呈した 1 例

中村 宏志

中村医院 内科

症例は 71 歳, 男性.

【主訴】動悸, 発汗, 体重減少.

【現病歴】平成 8 年 10 月頃から, 動悸・発汗・体重減少 (3 月間で 5kg) を認め, 当院を受診された. 夜間頻尿があり, 薬局で勧められ市販の金匱腎気丸を服用していたとのことであった.

【現症】身長 170cm, 体重 61kg. 脈拍 80/分, 整. 血圧 132/78 mmHg. 結膜に貧血・黄疸を認めず. 胸腹部に異常なく, 下肢浮腫なし.

【初診時検査所見】HbA1c 5.0 %, CRP < 0.05, TSH 1.5 μ U/ml, FreeT3 3.3 pg/ml, 尿中アドレナリン 5.8 μ g/day, 尿中ノルアドレナリン 43.2 μ g/day と特に異常を認めなかった.

【経過】金匱腎気丸の服用を中止してもらったところ, 動悸と発汗は軽減し, 体重も 1 月で 2kg 増加した. 体調も良くなったとのことである.

【考案】牛車腎気丸や八味地黄丸は高齢者頻尿やしびれに用いられるが, これらは虚症に用いられるものである. 金匱腎気丸はこれらと同系統の薬剤で, 市販されている. 本症例は実症と考えられ, 本薬剤に含まれる加工附子などが, むしろ増

悪させてしまい, 褐色細胞腫様の症状を引き起こしたと思われる.

市販薬の場合は, 症を考慮せずに用いられることもあり, 注意しなければならないと考えられた.

2 右副腎腺腫摘出 27 年後, 対側副腎に腺腫を再発したクッシング症候群の 1 例

高瀬 美希・植村 靖行・佐藤 隆明
山本 正彦・宗田 聡・今井 智之*
渋谷 宏行**

新潟市民病院内分泌・代謝内科
同 泌尿器科*
同 病理診断科**

症例は 59 歳, 女性. 27 年前にクッシング症候群で右副腎摘出術が施行された. 以後, クッシング症候群特有の身体所見は消失した. 3 か月前, 満月様顔貌, 体重増加, 四肢の浮腫を主訴に来院した. CT で左副腎に 2.5cm 大の腫瘍があり, ホルモンスクリーニング検査を行ったところ, コルチゾール 14.3 μ g/dl と基準値内であったが, ACTH が 2.0pg/ml 以下で抑制されていた. また 1mg デキサメタゾン抑制試験でコルチゾールが抑制されなかったことから, クッシング症候群の再発が疑われた. さらにコルチゾールの日内変動消失, 尿中遊離コルチゾール 247 μ g/日, 131I-アドステロールシンチにおいて, 左副腎腫瘍部位に一致した集積を認めた. 以上から左副腎腺腫によるクッシング症候群と考えられた. 腹腔鏡下左副腎全摘術が施行され, 病理診断は副腎皮質腺腫であった. 副腎腺腫によるクッシング症候群は, その殆どが片側性の腺腫によるもので, 対側への再発は極めて稀であり, ここに報告する.